

探究的な学習とは，どのような内容か。

総合的な学習の時間における探究的な学習とは，問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく右図のような一連の学習活動のことである。

総合的な学習の時間において，生徒は，日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて，自ら課題を見付け，そこにある具体的な問題について情報を収集し，その情報を整理・分析したり，知識や技能に結び付けたり，考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み，明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し，そこからまた新たな課題を見付け，更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく。

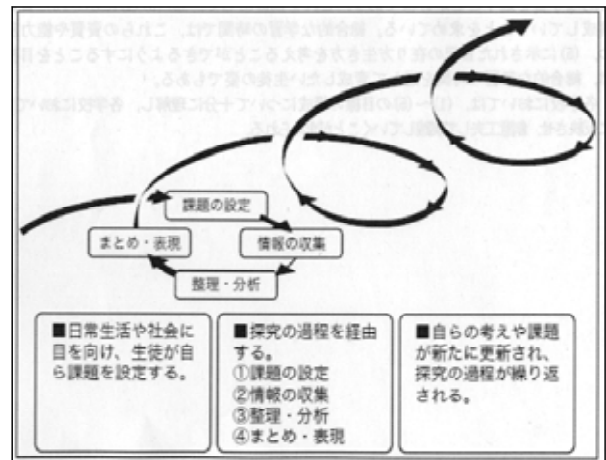


図 探究的な学習における生徒の学習の姿

探究的な学習では，次のような生徒の学習の姿を見出すことができる。事象をとらえる感性や問題意識が揺さぶられて，学習活動への取組が真剣になる。身に付けた知識・技能を活用し，その有用性を実感する。見方が広がったことを喜び，更なる学習への意欲を高める。概念が具体性を増して理解が深まる。学んだことを自己と結び付けて，自分の成長を自覚したり自己の在り方生き方を考えたりする。このように，探究的な学習においては，生徒の豊かな学習の姿が現れる。

国際理解，情報，環境，福祉・健康などの課題及び日常生活や社会とのかかわりの中から見出される課題は，「答えが多様で正答の定まらない問い」といった性質のものであることが多い。また，それらは，多様な視点から積極的に探究する中で，納得できる見方や考え方，解決の方途等を自分たちで生み出すことが求められている課題でもある。生徒は主体性，創造性，協同性を発揮し，試行錯誤しながらも学習対象とのやりとりを通じて，複雑に入り組んだ社会や生活の諸問題を解き明かしていく。そうした中で，新たな認識を得たり，資質や能力及び態度を身に付けたりしながら，自己の在り方生き方を考えることができるようにする学習活動が望まれている。